

再エネによる地域活性化

～風で、地域の未来をつくるという選択～

目次

01 自己紹介

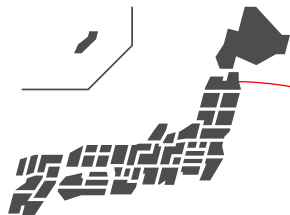
02 青森県中泊町の現状

- ・ 青森県中泊町の紹介
- ・ 町が抱える課題

03 地域活性化の取り組み

- ・ 脱炭素に向けた取り組み
- ・ 小泊漁港における洋上風力の展開
- ・ 水産連携協定

農業の町と漁業の町が合併して生まれた中泊町とは



中泊町ってどこ？

- ◆ 青森県の北西部、津軽半島の中央に位置
- ◆ 日本海と陸奥湾に囲まれた「海と山に抱かれた自然豊かな町」
- ◆ 合併により誕生した町（旧中里町＝農業の町＋旧小泊村＝漁業の町）
- ◆ 地図で見ると、日本列島のとっぺん近く！

中泊町の魅力

- ◆ 「幻の魚」ウスメバル、高級魚マツカワガレイなどの海産物が豊富
- ◆ 一本釣り文化が今も息づく、漁師町の誇り
- ◆ 山の幸と海の幸が日常にある暮らし
- ◆ 津軽三味線や文学碑など、文化と歴史も豊か

中泊町は深刻な人口減少を抱え、農林水産業に依存する経済構造が課題です。



人口減少と高齢化

- ・人口は1960年をピークに減少
- ・2023年：約9,800人 → 2045年：4,000人以下へ
- ・子どもが少なく、高齢者が多い“つぼ型”構造



農林水産業への依存

- ・第一次産業の比率が全国平均の約6倍
- ・漁業と稲作が中心
- ・脱炭素社会に向けたまちづくりを推進中

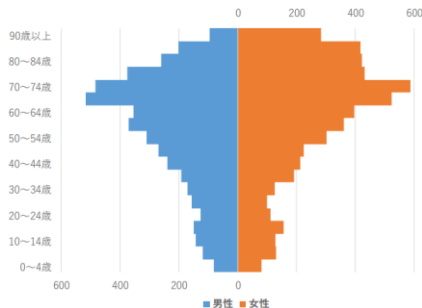


図 人口ピラミッド (2023年7月末現在)

表 目指すべき将来人口 (推計値)

項目	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
推計	12,743	11,474	10,331	9,196	8,119
ビジョン	12,743	11,506	10,422	9,430	8,553
2020年/2010年比	-	▲10%	▲18%	▲26%	▲33%
2030年/2020年比	-	-	-	▲10%	▲18%

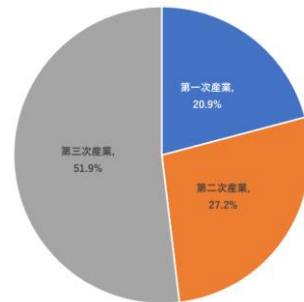
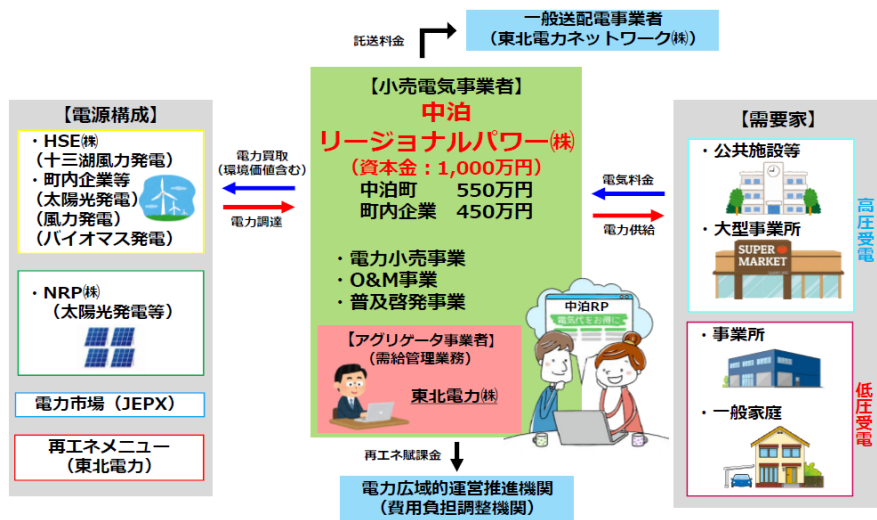


図 産業構造

中泊リージョナルパワー設立は再エネの地産地消を進め、地元の雇用も創出します。



再エネの地産地消

中泊リージョナルパワーは、地域で再生可能エネルギーを「つくって、つかう」ことを目指します。これにより、エネルギーの外部依存を削減し、再エネの地産地消を推進します。

雇用創出

再エネの地産地消によって、新たな雇用が創出されます。電力小売や発電所の運転・保守などにより、若者を中心とした地域の雇用機会を増やします。

脱炭素化貢献

この取り組みにより、化石燃料からの脱却が進みます。クリーンエネルギーの利用はCO2排出を削減し、持続可能な社会の実現に貢献します。

洋上風力発電により電力供給と地域経済を活性化し、若者の雇用を創出する計画です。

地域経済の
活性化

洋上風力発電により地域内でのエネルギー生産が可能となり、エネルギーコストの削減と地元経済の循環を促進します。

若者の雇用
創出

洋上風力発電関連の新しい職種が生まれ、特に若者を対象とした技術職や管理職での雇用の増加が期待されます。

事業概要案

設置エリア：小泊漁港区域
事業規模：100MW程度
風車機種：15MW程度
基数：6～7基程度
事業主体：株式会社ミラストイル
(出資：日本風力開発(株)、中泊町)



水産資源と洋上風力発電が共生し、地域の基盤産業を多角的に発展させる連携協定を締結。



中泊さかなプロダクツ協議会



水産連携協定の目的

漁獲量の減少や価格の低迷、水産加工業の未成熟といった地域の水産業が抱える課題に対応するため、2022年8月に中泊町・小泊漁協・日本風力開発株式会社の三者で「水産連携協定」を締結しました。

さらに同年9月には、地域の水産振興と産業連携を推進する組織として「中泊さかなプロダクツ協議会」を設立し、水産加工業の強化や、青森県が推進するマツカワガレイの陸上養殖にも取り組んでいます。

中泊さかなプロダクツ協議会の役割

中泊さかなプロダクツ協議会は、行政・漁協・事業者がそれぞれの知見やネットワークを持ち寄り、水産物に付加価値を加えて販売することで、“しっかり稼げる仕組み”を地域に根づかせ、地域活性化に貢献していくことを目指しています。

